

流れを改善し、洪水の危険を取り除く工事が進められています。



東橋から見た東海道新幹線の橋梁と鈴川の流れです。流れは堤防間の半分ほどで、残りは土砂の堆積と、雑草に覆われ、鈴川の流下面積を狭めています。



重機の投入により堆積した土砂が取り除かれ、流れの幅が広くなりつつあります。



東橋から北を見えています。冬の撮影ですので、枯れ草に覆われた中州（？）
鈴川の流れは堤防間の3分の1程度しかありません。



工事は進行中ですが、川の流れを取り戻しているようです。水量が少ないために、
水深もなく、歩いて渡ることができそうです。
この様子ならば、よほどの大雨でなければ、堤防を溢水する不安は削減しそうです。
この状態が鈴川の本来の流れと思われれます。



休日で作業は休止。大型の重機が入り工事が行われます。東海道新幹線が行きます。手前が東橋。橋のたもとに光る流れ、流れの幅が広がり、土砂を取り除いた様子が見えます。川浚いの工事は、まだまだ続きます。

鈴川沿岸の冬、恒例の探鳥会が行われてきました。コースは東橋の駐輪場に集合し、約2時間と少しかけて、鈴川をさかのぼります。堤防に守られた、河川敷には数多くの野鳥の姿を目にする事が出来ます。

観察指導には、大磯に拠点を置く「高麗探」の方々が多数見えます。野鳥観察用の望遠鏡をかざし、あの鳥は・・・と、たちどころに捉えた姿をのぞかせてくれます。毎回、合計すると、20数種類を数える野鳥が観察されました。

「高麗探」の方々には、鈴川、金目川は、県内でも数少ない「野鳥の宝庫」と教えられています。次の冬、野鳥は飛来するのでしょうか・・・。

また一つ、「人間と自然との共生」が考えさせられます。